

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿	児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、 元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 ※元気は健康や体力を、笑顔は感性や情操を、光は個性や特性を意味する。	
(2)	育みたい資質・ 能力 (育みたい 生徒の姿)	①自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ②学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。 ③地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ④地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。
	ありたい 教職員の姿	①児童・生徒のニーズや特性に応じた適切な指導・支援を行っている。 ②人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ③地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ④地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。 ⑤特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスをを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ⑥ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童・生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で笑顔で、安心して学べること ・可能性を伸ばし、社会的に自立すること <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の進路が保障されること <p><地域の障がい児を持つ保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学等の情報提供や教育相談の機会があること <p><地域の教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・特別支援教育に関する相談の機関であること 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な学校生活と進路保障 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携強化と情報共有 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修と専門的知識の提供、教育相談 ・交流活動の充実 <p><地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労に向けた連携 <p><地域の自治会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸行事等における交流 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動への理解、支援と参画 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後も含めた切れ目のない支援・相談体制の充実 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事交流と本校への理解、協力 ・交流活動の充実 <p><地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への理解、協力 <p><地域の自治会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への理解促進と交流

<p>(3)前年度の学校関係者評価など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も金山小学校2年生との交流を実施した。金山小学校としても交流活動の在り方をさらに深め、広げていきたいと考えている。今後も、同じ地域の学校として連携を一層深めていくことが期待される。 ・ボッチャを通じた交流は、地域にとっても参加者双方にとっても有意義な経験となっている。多様な特性のある生徒と関わることで相互理解が深まる機会となっているため、今後も継続的に実施していくことが望まれる。 ・生徒本人の意思決定を支える取組のさらなる充実が求められている。日常生活の中で選択の機会を意図的に設け、自己決定力を育成することが必要である。また、就労支援においては、保護者の福祉制度への理解に差が見られることから、関係機関と連携し、保護者への継続的な啓発および支援体制の整備が必要である。 ・「目指す姿」を教職員間で共有し、取組の達成状況を定期的に検証することが求められる。また、業務改善を推進するとともに、自己研鑽の時間確保を意識したワークライフバランスのさらなる推進を図りたい。 				
<p>(4)現状と課題</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">教育活動</td> <td style="padding: 5px;"> <p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学習活動のいっそうの充実を図る必要がある。 <p><交流活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校や自治会との交流活動を続けていく必要がある。 ・交流の充実を図るため、交流先との情報共有や意見交換を進める必要がある。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。 <p><ICT教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問児童のリモート授業や、臨時休校となってもオンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるようICT環境を準備する。 ・ICTを活用した指導のいっそうの充実を図る。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">学校運営等</td> <td style="padding: 5px;"> <p><研修機会の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <p><職場環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は減少傾向にあるが、業務の精選・見直しなど、さらなる取組が必要である。また、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。 </td> </tr> </table>	教育活動	<p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学習活動のいっそうの充実を図る必要がある。 <p><交流活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校や自治会との交流活動を続けていく必要がある。 ・交流の充実を図るため、交流先との情報共有や意見交換を進める必要がある。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。 <p><ICT教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問児童のリモート授業や、臨時休校となってもオンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるようICT環境を準備する。 ・ICTを活用した指導のいっそうの充実を図る。 	学校運営等	<p><研修機会の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <p><職場環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は減少傾向にあるが、業務の精選・見直しなど、さらなる取組が必要である。また、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。
教育活動	<p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学習活動のいっそうの充実を図る必要がある。 <p><交流活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校や自治会との交流活動を続けていく必要がある。 ・交流の充実を図るため、交流先との情報共有や意見交換を進める必要がある。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。 <p><ICT教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問児童のリモート授業や、臨時休校となってもオンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるようICT環境を準備する。 ・ICTを活用した指導のいっそうの充実を図る。 				
学校運営等	<p><研修機会の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <p><職場環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は減少傾向にあるが、業務の精選・見直しなど、さらなる取組が必要である。また、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。 				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」等を策定する。 ・児童生徒の自主的な活動を促進することにより、日々の生活を豊かに生きる力を育てる。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。 ・小学部、中学部及び高等部の特性を生かし、学部間の連携を深め、一貫性のある教育を進める。 <p><安全で安心な学び場づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや暴力のない学校づくりに取り組む。
-------------	---

	・防災教育、防災対策の推進に努める。
学校運営等	<p><保護者・地域住民等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校や福祉関係施設、行政機関等との連携を強める。 ・地域における特別支援教育を推進するために、特別支援学校のセンター的機能による支援の充実に取り組む。 <p><資質向上の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識の習得に努める。 ・新しい時代の教育に対応できるよう研鑽と修養に積極的に取り組む。 <p><働きやすい職場環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選や分担等の見直しを図り、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの成長に合わせた、きめ細やかな授業を行う。 ・視覚支援としてICTも活用しながら児童が見通しをもって活動できるよう支援する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのニーズにあった授業となっているかを振り返る。 ・ICTに関わる研修会を1回行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画(国語・算数)の目標達成率80%以上 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びたい気持ちやできることを増やしたいという意欲の向上に繋がるような指導・支援を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に3回以上、生徒たちの学習成果を発表できる場を設け、生徒たちの意欲向上につなげる。 ・週に1回以上、生徒の指導に関する会議の場を設け、生徒たちにどのような支援が必要であるかを検討する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業において保護者アンケートを行い、「生徒 	(年度末および適宜記載)	

	<p>の変容について効果があると実感する」という趣旨の意見を3分の2以上得る。</p> <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自立活動」の授業において、卒業後の自立・自律した生活の実現を目指し、個々の課題等に応じた内容に取り組む。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で生徒の変容や活動の成果を随時検証し、支援の方向性を見極める。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（自立活動）の目標達成率80%以上 <p><教務・情報部（教務）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた年間指導計画と個別の指導計画を策定し、児童生徒の実態に応じたものになっているかをPDCAサイクルで確認しながら、学習指導を充実させる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標や手立ての検討、評価についての研修を年1回以上実施する。年度途中と年度末に検討会を開催し、計画書の見直しをすすめる。 <p><教務・情報部（情報）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にICT機器を活用した授業を実施し、社会生活に必要な技能を習得できるよう支援する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用を呼び掛けるとともに、活用のための研修会を実施する。 ・年度末に授業担当より聞き取りを行い、ICT活用率を算出して、校内で共有する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業が全体の75%以上 <p><研修・人権教育部（人権）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小、中学部の居住地校交流、各学部の学校間交流を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、年1回以上の学校間交流を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流に参加した児童生徒の満足度（肯定的な感想） 		<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
--	---	--	----------------------------

	<p>が80%以上</p> <p><保健部（保健指導）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階の把握に基づき、保健指導の目標及び指導内容を明確にする。 ・歯・口腔の健康づくりの実践を通して、生活の自立へつなげる。 ・児童生徒の発達段階、身体的成熟や精神的発達に合わせて、性教育をおこない、社会生活への適応を図る。必要に応じて家庭との連携・協力体制をとる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、年に1回保健指導を実施する。 ・児童生徒が歯みがき、手洗いなど健康的な生活の習慣を身につける。 		
<p>キャリア教育の充実</p>	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部卒業後の生活が円滑になるよう、中学部と授業の連携を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学部への見通しがもてるよう、年3回以上の体験（見学）を行う。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学部卒業後や将来に向けて、日常生活や学校生活の中で必要となる基本的な力や望ましい態度を身につけられるよう、一人ひとりの実態に応じた支援を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りの身近自立ができるよう、支援部作成の「小中学部でできることは」に記載されている項目を中心に、支援・指導を行う。 ・本校のキャリア教育プログラムの内容を各授業に取り入れる。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立に向けて、基礎的能力や態度を身につけるための支援を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の構造化を図る ・各授業等において「望ましい作業態度」「マナー・言葉遣い」の周知を行う。 ・外部講師の招聘 ・進路にかかわる個別懇談の実施（1人2回） <p>【成果指標】</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>

・希望の進路を実現した生徒が80%以上

<総務部>

・児童生徒の実態に合った儀式行事の企画・運営を行う。

【活動指標】

・前年度の事後アンケートを参考に内容の精選や時間設定を行ったり、児童の実態に合った回数、行事の練習等を行ったりする。

<研修・人権教育部（研修）>

・教員へのキャリア教育プログラムの周知を改めて行い、本校のキャリア教育の推進を図る。

【活動指標】

・職員会議や学部会で教員の共通理解を図る。

<保健部（食育指導）>

- ・給食を生きた教材として活用する。
- ・児童生徒と関わりの深い事業所等の食材を積極的に使用し、地域の方に見守られながら成長していることを、給食を通して伝える。
- ・様々な献立を給食に取り入れ、児童生徒の「食経験」を増やして、食に対する知的好奇心や興味関心を高める。
- ・地域の農畜産物生産者と連携・協力し、出前授業等を通して交流することで児童生徒の地域社会への参画に繋げる。

【活動指標】

・児童生徒に関わりのある地域の納入業者を積極的に利用する。

【成果指標】

- ・日常の給食時間の児童生徒の状態（食べられるものが増えた・食するときの姿勢等）を向上させる。
- ・出前授業の事後指導アンケートで、「〇〇さんのおはなしをよく聞くことができた」等で「はい」と答える児童生徒が80%以上

<支援部（地域支援）>

・地域支援の充実

【活動指標】

・巡回相談へ20回以上参加する。

<支援部（進路支援）>

	<p>・進路支援の充実</p> <p>【活動指標】</p> <p>・生徒向けの進路学習を年3回以上実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・進路学習後のアンケートで、生徒からの理解が深まったという回答が80%以上</p>		
<p>安心して安全な学び場づくり</p>	<p><生活指導部></p> <p>・いじめのない学校づくりを進める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・「仲間づくり」を意識した活動を取り入れた児童生徒集会を、年3回実施する。</p> <p>・いじめの早期発見早期対応につなげるため「いじめアンケート」を、年2回実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・保護者アンケートで、「児童生徒の悩み・相談に学校は親身に対応している」に対する肯定的な回答が80%以上</p> <p><保健部（健康診断）></p> <p>・児童生徒が主体的に健康診断に臨めるようにする。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・健康診断を実施する前に、児童生徒の障がいの状態や発達段階の的確な把握に基づいた事前指導等をおこなう。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・実施方法についてのアンケートで教職員の満足度80%以上</p> <p><保健部（避難訓練）></p> <p>・児童生徒が災害時に安全に避難できるようにする。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・避難訓練の事前指導・事後指導を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・事後指導アンケートの「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が80%以上とする。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
改善課題			
<p><小学部></p> <p><中学部></p> <p><高等部></p>			

<教務・情報部>

<研修・人権部>

(年度末に記載)

<保健部(保健指導)>

<保健部(食育指導)>

<保健部(健康診断)>

<保健部(避難訓練)>

<支援部(進路支援)>

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p><教務・情報部(教務)></p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領に基づいた教育課程を編成し、年間指導計画や個別の指導計画が、学校として一貫性を保ち、児童生徒の実態に即したものとなるよう検討していく。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none">・全学部において児童生徒の発達段階に合わせた学習指導を展開し、一貫性のある教育課程となるよう学部間の連携を図っていく。・学習指導の中で児童生徒の実態と指導計画の段階があっているか年2回検討していく。・年度末に指導計画の総括を行い、次年度に引き継ぐ。 <p><教務・情報部(情報)></p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用した授業を展開できるよう全体研修やグループ研修の機会を設定する。・情報に関するセルフチェックを定期的実施し、個人情報管理を徹底する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none">・個人情報等の管理についての規定を設け、年度始めに教員に周知する。・情報に関するセルフチェックを年3回実施する。・情報機器や校務支援システムを操作するためのマニュアルを作成し、円滑に業務を引き継ぐ体制を整えていく。	(年度末および適宜記載)	

<生活指導部>

- ・緊急時において、教職員が迅速に対応をとることができるように校内体制を整える。

【活動指標】

- ・「児童生徒失踪時対応」「不審者侵入時対応」「緊急時児童生徒引き渡し対応」についての研修を、年各1回ずつ実施する。

<研修・人権教育部> (研修)

- ・特別支援学校教職員としての専門性の向上を図る。

【活動指標】

- ・転入職員対象の研修会を年1～2回実施する。
- ・授業の実践力を高めるため教職員による「授業研究」を学期に1回行う。
- ・外部講師招聘事業を活用した研修会を学期に1回実施する。

<研修・人権教育部> (人権)

- ・人権・同和教育に関する資質の向上を図る。

【活動指標】

- ・年1回以上、全体研修会を実施する。

【成果指標】

- ・全体研修会後のアンケートで肯定的な意見が80%以上

<保健部 (研修) >

- ・災害時や児童生徒の緊急時に、教職員が適切な対応がとれるような校内体制をつくる。

【活動指標】

- ・救命救急法研修会を実施する。
- ・食物アレルギー、てんかん発作、嘔吐処理についての校内研修を実施する。

【成果指標】

- ・教職員参加率90%以上とする。
- ・職員アンケートで満足度80%以上とする。

<支援部 (地域支援) >

- ・特別支援教育に係る教職員の専門的知識と支援の向上

【活動指標】

- ・夏季休業中に特別支援教育に関する公開講座の開催
- ・より効果的な教材や指導書の購入と紹介
- ・新教材、指導書の購入と紹介 (各学期1回以上)

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会後アンケートを実施し、満足度70%以上 <p><支援部（進路支援）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援の充実 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者対象の研修会を年1回以上 ・地域の進路支援マップ新版の発行と進路支援だよりによる情報提供 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修後のアンケートで、理解が深まったという回答が70%以上 ・保護者満足度アンケートで、進路支援に関する項目の満足度が70%以上 		◎
<p>保護者・地域住民等との連携</p>	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校保育所にくろしおだよりを届け、本校の活動についての理解を広める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校保育所の掲示用に「くろしおだより」を5回以上配布する。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での取り組みを地域に発信し、地域とのつながりを深めたり、本校の活動理解を深めたりする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭などで、保護者・地域の方々に向けて作業作品を配布する。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者の方へ高等部の取組についての情報発信および共同活動を行うことで、本校の教育支援の理解・啓発に努める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部・学校たよりへの記事掲載（10回以上） ・地方新聞への記事提供（2回） ・金山保育所交流（2回）・市町福祉祭（3回） ・金山地区（通年） <p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・くろしおだよりの配布、掲示やHPの更新等を通じて、本校の活動についての理解を広める。 <p>【活動指標】</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・金山地区内の掲示板にくろしおだよりを月1回掲示する。 ・学園の日々の様子を行事ごとにHPに掲載する。 		
働きやすい 職場環境づくり	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選や、業務の流れ・引継ぎ資料の作成を行い、円滑に業務が遂行できるようにする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事について、業務の流れや引継ぎ資料を最新のものに更新する。 <p><学校全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間の縮減を図る。 ・コンプライアンスを徹底する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の時間外労働を360時間以内に抑える。 ・月45時間を超える時間外労働をゼロにする。 ・定時退校日を月1回設定する。 ・放課後開催の会議時間を45分以内に収める。 ・コンプライアンスミーティングを年3回以上実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日に85%以上の職員が定時退校できている。 ・会議のうち45分以内で終了した割合が80%以上 ・一人あたりの月平均時間外労働時間20時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者0人 ・年360時間を超える時間外労働者0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数16日以上 	(年度末および適宜記載)	
情報提供による信頼の構築	<p><学校全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道機関への情報提供を積極的に行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上資料提供を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道機関で取り上げられた件数：年間3件以上 	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への	(年度末に記載)
-----------------	----------

取組方向	
------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)